

くにしていじゅうほうぶん かざい
国指定重要文化財



出ヶ原・円満寺観音堂

解説

したたにいづ がはら えん
西会津町下谷出ヶ原にある円満寺の観音堂は、室町時代にできた三方間仏堂で、様式は唐様建築です。

会津地方には、この建築様式が多く全国から注目されていますが、その中でもこの観音堂はよくまとめられているという点で有名になっています。

解説

がもうじさと
蒲生氏郷 (1556～95) は、あづちもやまじだい
安土桃山時代の文武の道に通じた武将で、1590年(天正18年)に会津の若松城(鶴ヶ城)主となり、漆器産業をさかんにしたとも伝えられています。

その子秀行は領内巡視のとき西光寺に因縁を感じ、父氏郷の尊霊を祭りました。

一時、寺領を没収されましたが、三代忠郷の諸老臣が、この氏郷の画像と和歌一首を贈ったと伝えられています。現在、境内に氏郷の御影堂があります。



かみのじり
上野尻西光寺・紙本着色蒲生氏郷像